

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	人権教育研究室
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。

進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 「人権教育の基本方針」に基づき、人権教育科目の体系的なカリキュラムマップを作成する。	→人権教育科目のカリキュラムマップの有無。	C	B			
2. 人権教育研究の活動をメディアに定期的に発信するとともに、人権教育に関わる近隣の大学や公共機関・団体との連携事業を行う。	→メディアからの情報による講演会等への参加者数、および連携事業の開催数。	B	B			
3. 現在の指定研究の再編成を行い、人権教育の新たな展開を研究テーマとした指定研究チームを設置する。	→指定研究チームをひとつ新設する。	C	C			
4. 人権教育科目の企画立案とは別に、写真・パネル展やそれと関連したトークセッションを開催し、人権課題への理解と関心を深める機会を提供する。	→写真・パネル展とトークセッションの企画を、春学期、秋学期のどちらかで一回開催。	B	B			
5. 人権教育研究のホームページに、人権課題の解説や相談窓口の説明文書などに関するコンテンツを拡充する。	→追加拡充したコンテンツ数。	B	B			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目0.0.1	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。 (理念・目的の設定の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→ <input checked="" type="radio"/> 理念・目的を設定している <input type="radio"/> 理念・目的を設定していない (理念・目的) 建学の理念である「キリスト教主義」に基づく教育の一つの柱として、「人権を大切に作る心」と「人権侵害を見抜き、許さぬ心」を涵養し、それを実践する方法を研究し、学内外に発信、啓発する事を目的とする。 (説明) 上記の理念・目的を明確にするために、人権教育研究室の下に研究部会、人権教育プログラム委員会を設置し、研究部会の下で4つの指定研究を行い、また人権教育プログラム委員会の下で9つの主題に基づく人権教育科目を開講している。啓発活動としては、研究会を学内外に公開して行う公開研究会を開催、また、春学期と秋学期にそれぞれ上ヶ原キャンパスで2回KSCで1回大学主催人権問題講演会を実施している。これまでの実績ならびに資源から鑑みて指定研究部会の研究実績が未だ十分とは言えない。授業科目についても受講者数が減少している科目がみられる。啓発活動に関しては、恒例となったプログラムが好調に行われている。さらなる回数増加と、内容の充実を目指している。個性化に向けては、映画、写真を資料として用いたり、パネルディスカッションを行い双方向の研究、啓発を試みている。写真展もその会場を図書館エントランスにするなどして、多くの人々の関心を集めるための工夫を行っている。
★ 小項目0.0.2	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。 (周知・公表の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 周知・公表している <input type="radio"/> 周知・公表していない (説明) 構成員に対する講演会、研究会の周知の方法として、フライヤー、ポスターを各学部等の組織に配布し、また人権教育科目の受講者にも配布している。また、人権教育研究室に係る教職員を通じて、授業等で広く案内を行っている。周知方法の二つ目として、ホームページで随時ニュースを掲載している。社会への公表方法としては、ホームページを通じた広報に加え、人権関連組織（マスコミ、NGO等）や行政部局へ、フライヤー、ポスターを送付している。さらに、定期的開催される人権教育研究室評議員会や人権研修会、研究会、展示、「紀要」等の出版物の発行を通して、学内への周知、社会への公表を行っている。
小項目0.0.3	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない (説明) 公開研究会等に関しては、毎回アンケートをとり、これらをまとめて人権教育研究会室長会で評価し次回への参考としている。また、人権教育研究室評議員会において、毎年度事業報告と事業予定を報告し、審議を受けている。
その他	

《評価指標データ》

本学の育成した人材（卒業生）に対する社会（企業）の評価
 卒業生がどの程度スクールモットー（マスタリー・フォア・サービス）をどの意識しているか【基本的な基礎データ】
 卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率【基本的な基礎データ】
 卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率
 在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
 理念の周知について(1)－理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数
 理念の周知について(2)－総合コース「『関学』学」の履修者数

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。	
★ 小項目0.0.1	2009年度より継続的に行っている「人権教育科目の体系的なカリキュラムマップ作成」に関して、年度末に行う「人権科目担当者会」において、本学の人権科目開設時より講師として関わってくださっている友永健三氏に人権教育の現状と重要性についての講演を行っていただいた。それをふまえて、本学の人権科目の特色と目的を各担当者間で改めて話し合い、共有することができた。これにより、次年度以降に行う、具体的な「カリキュラムマップ」作成への準備を整えることができた。
小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。	
★ 小項目0.0.1	室長会において、科目内容ならびに受講者数の現状把握を春学期に行い、夏休み中にその分析と科目代表者との懇談を通じて各科目の関連性を整理する。そこで得られた情報をもとにして、年内に室長会と科目の代表者で懇談を行い、カリキュラムマップに関する意見交換を図る。年度内には、カリキュラムマップを人権教育プログラム委員会に提案し、審議検討を行ってもらい、年度内にはカリキュラムマップの作成を終了する。
小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価】(2)改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
★ 小項目0.0.3	
その他	

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
★ 小項目0.0.3	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

○2011年度、9つの人権教育科目の「科目内容ならびに受講者数の現状把握」を行い、「各科目の関連性を整理」した上、「カリキュラムマップ」作成が行われる点は評価されます。2011年度末までにマップ作成が完了し、2012年度の授業で活用されることが期待されます。

○小項目0.0.1の現状説明では、内容が具体的活動内容に入り込みすぎています。理念・目的そのものの適切性などについても記述してください。

○公開研究会等において毎回アンケートをとり、評価し次回への参考とされていることは、PDCAの観点から重要なことです。

○研究室の活動を記述する項目がなく、ご苦労いただいたと思いますが、活動状況は、「4. 教育研究組織」の4.0.1において、本学の独自の要素として(研究活動の状況)を設定しています。従って、小項目0.0.1で記述されている内容の中の研究活動については小項目4.0.1及び4.0.2に記述する方が適切です。

○昨年度、伸長させる方策、改善方策で示されたものは、どうなったのでしょうか。それらを確認、記述することでPDCAが回っているか検証できます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目0.0.1

基盤評価：「学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること」「高等教育機関として大学が追求すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること」

達成度評価：「建学の精神、目指すべき方向性や達成すべき成果等を明らかにし、当該大学、学部・研究科の理念・目的として適切である」

○小項目0.0.2

基盤評価：「公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること」

達成度評価：「理念・目的の周知・公表に関する各種方策（周知・公表の有効性や方法の適切性等の定期的な検証・改善など）をとり、当該大学に対する理解向上につながっている」

○小項目0.0.3

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、理念・目的の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

①理念・目的の適切性についての検証に関して：人権教育研究室の理念ならびに目的は、1969年5月7日に出された「関西学院大学改革に関する学長代行提案（通称：小寺学長代行提案）」（関西学院百年史資料編Ⅱ464以下参照）に記されている下記の既述の具現化の一つと考えられる。すなわち「『キリスト教主義人格教育』も、ただ相手の人格を認めて干渉しないという消極的人格をめざすものではなく、さらに一歩進んで、相手を自分自身に対する根本的な問いとして真摯に受けとめるような能動的人格を目指すものでなければならない」という建学の理念理解である。当時学園紛争の中で厳しく問われた問いの一つの具体化として「人権を大切に作る心」と「人権侵害を見抜き、許さぬ心」を涵養するという理念・目的は、現代においてもふさわしいと思われる。

②昨年度記載した方策に関して：指定研究チームの再編に関しては、関西学院の人権教育の一貫性を目指すため、新たに初等部から研究員を加えたり、次年度に向けての再編のための具体的交渉に入っている。また、学外機関とのネットワークの拡大に関しては、担当職員ならびに室長が複数の学外研究所や研究会、研修会等に直接出向いて、意見交換を行ったり、8月27日に開催された全国大学人権教育交流会に初めて準備段階より協力を行い、また、室長もパネリストの一人として発題・報告を行うなど、学外諸団体との積極的な協力・交流・ならびに意見交換を行った。そして、その中で、学外からの関西学院大学の人権教育に関する意見聴取ならびに意見交換を行うことが出来た。